

各 位

会社名 イオン株式会社
 代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也
 (コード番号8267 東証第一部)
 問合せ先 執行役経営企画担当 山梨 広一
 (電話番号 043-212-6042)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社の最近の業績動向を踏まえ、2014年4月11日に公表した2015年2月期(2014年3月1日～2015年2月28日)の連結業績予想を下記の通り修正いたします。

記

1. 2015年2月期の連結業績予想の修正(2014年3月1日～2015年2月28日)

単位:百万円

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	7,000,000	200,000～ 210,000	200,000～ 210,000	48,000
今回修正予想(B)	7,000,000	140,000	150,000	35,000
増減額(B-A)	0	△60,000～ △70,000	△50,000～ △60,000	△13,000
増減率	0.0%	△30.0%～ △33.3%	△25.0%～ △28.6%	△27.1%
前期比増減額	604,858	△31,432	△26,854	△10,600
前期比増減率	9.5%	△18.3%	△15.2%	△23.2%
前期実績(2014年2月期)	6,395,142	171,432	176,854	45,600

2. 連結業績予想修正の理由

当期の連結営業収益は、期初公表の業績予想を達成する見通しとなりましたが、連結営業利益、連結経常利益、及び当期純利益の業績予想をそれぞれ修正いたします。

当期は、政府の景気対策効果や円安進行に伴う企業業績の改善が見られる等、国内経済は緩やかな回復基調となりましたが、個人消費については消費税増税や物価上昇等を背景に生活必需品に対するお客さまの節約志向が強まる等、小売業にとって厳しい環境となりました。

このような中、GMS事業では、イオンリテール株式会社が消費税増税後の価格政策や夏場の天候要因等の影響により、衣料品、食品を中心に売上高・荒利益高が計画を下回り、営業黒字を確保しましたが減益となる見通しである他、当期より通期で連結となった株式会社ダイエーにおいても売上高・荒利益高がともに計画を下回り、GMS事業の営業利益は期初に公表した計画を下回る見通しとなりました。SM・DS・小型店事業についても、厳しい消費環境と業態を超えた競争等の影響により事業全体では営業利益が計画を下回る見通しです。

一方、これまで当社が進めてきたグループ構造改革で培った事業ポートフォリオ構造が奏功して、キャッシング事業や海外事業等が好調に推移する総合金融事業や、当期出店した新店や大型活性化が寄与したディベロッパー事業、ドラッグ・ファーマシー事業やサービス・専門店事業、中国事業等の業績は営業増益となる見通しとなり、連結業績に寄与しました。

現在、イオン株式会社、並びにイオンリテール株式会社、株式会社ダイエー及びイオンモール株式会社の組織体制を刷新し、高収益構造への転換に向けた改革に取り組むほか、昨年11月のウエルシアホールディングス株式会社の連結子会社化や、本年3月に設立した株式会社マルエツ、株式会社カスミ、及びマックスバリュ関東株式会社による共同持株会社「ユナイテッド・スーパーマーケットホールディングス株式会社」の連結子会社化等、新たに成長が期待される領域での事業構造改革を進め、グループ業績の早期改善を図ってまいります。

以 上

* 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の実績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。